

**沖縄の 沖国大産業総合研究所  
フォーラム**  
**クルーズ観光と  
地域的対応**



かつては富裕層のレジャーと  
考えられていたクルーズが様変  
わりしている。今では、世界中  
で毎年2700万人余りの人々  
が気軽にクルーズを楽しみ、そ  
の経済波及効果は約14兆円とい  
う巨大レジャー産業にまで成長  
した。

成功の主要因は、クルーズを  
一般大衆が気軽に楽しめるレジ  
ヤーに変身させたことにある。

池田良穂 大阪府立大 教授 (寄稿)

下

1960年代にカリブ海で生ま  
れた新しいビジネスモデルであ  
る現代クルーズは、年収が30  
0万円程度からの中間層をター  
ゲットにし、高級感を残しながら  
も1日当たり1万円台からの  
低価格とし、現役世代が楽しめ  
るように1週間以内と短くし  
開かれ、13年前に東アジアにも  
進出した。それが中国発着クル  
ーズで、多くの中国人客を乗せ  
た大型クルーズ船が続々と九州  
や沖縄の港に訪れている。昨年  
中国のクルーズ人口は240万  
人に達した。また、日本発着の  
大型外国客船も年間を通じて運  
クルーズ観光は、他の一般的  
な観光とはその特性が大きく違  
っている。最近の客船は急速に  
大型化されて、3〜4千人の乗  
客を乗せている。すなわち大型  
航空機10機以上の観光客が一気  
に上陸してくる。朝に入港して  
夕方には出港するパターンが多

## 客船乗客に地元消費を

た。北米全土から飛行機でマイ  
アミまで移動して船に乗るフラ  
イ&クルーズを導入し、年間を  
通じて定曜日に定期的に出港す  
る定点定期クルーズとするな  
ど、レジャー客としての顧客満  
足度を徹底して向上させた。  
この現代クルーズは北米で急  
成長した後、欧州、豪州等に展  
航されるようになった。その結  
果、長年15〜20万人と低迷して  
いた日本のクルーズ人口は昨年  
30万人を超えた。  
日本各地の港は、クルーズの  
経済効果を取り込むべく誘致活  
動に積極的になり、観光立国を  
目指す国もクルーズ誘致に全面  
的な支援体制をとっている。

クルーズ観光は、他の一般的  
な観光とはその特性が大きく違  
っている。最近の客船は急速に  
大型化されて、3〜4千人の乗  
客を乗せている。すなわち大型  
航空機10機以上の観光客が一気  
に上陸してくる。朝に入港して  
夕方には出港するパターンが多  
く、その滞在時間は7〜8時間  
程度だ。すなわち数千人の日帰  
り客が大挙してやってくるわけ  
で、いかに満足させ、地元での  
消費を促すかが経済効果を得る  
ための肝となる。  
観光庁がクルーズ客の消費統  
計を取り出した。それによると  
客1人の1日当たりの支出は3  
万1千円と、他の旅行客の2万  
6千円より20%以上も多い。こ  
れは、クルーズの料金体系が「オ  
ールインクルーズ」シブといつて、  
旅費、宿泊費、食費、エンター  
テイメント費まで含み、先払い  
しているため旅行中は財布のひ  
もが緩むためだ。中でも買物代  
が95%を占める。大型船では船  
内でも免税品の特売等を頻繁に  
しているの、上陸してしか買  
えないものをいかに揃えるかが  
大事になる。

◇ ◇  
沖国大産業総合研究所第27回  
フォーラム「沖縄のクルーズ観  
光と地域的対応」(同研究所主  
催、琉球新報社共催)が11日午  
後2時から沖国大13号館301  
教室で開かれる。